

日向市中心市街地活性化基本計画 (計画期間 20年3月～26年3月)

※ 期間延長適用後

【中心市街地を巡る状況】

- 日向市中心市街地は、江戸時代から幕府直轄地として陣屋がおかれ、市内の細島港により南九州の玄関口として繁栄
- 郊外店の進出により中心市街地内の大型店が次々倒産・撤退
- 中心市街地で積極的に土地区画整理事業を実施

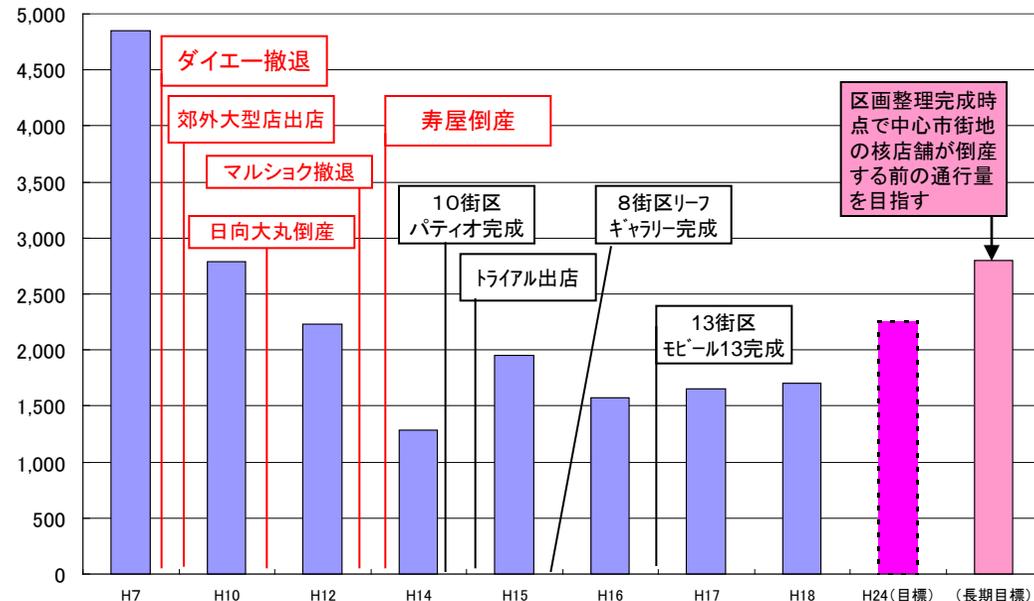


- 中心市街地の人口
H2: 1,703人 → H17: 1,378人 (△19%)
- 中心市街地の年間商品販売額
H3: 173億円 → H16: 73億円 (△58%)
- 中心市街地の従業者数
H3: 997人 → H16: 698人 (△30%)

【目標】

目標	指標	現況値 (H18)	目標値 (H25)
活気に満ちた生活文化交流空間づくり	歩行者通行量	1,700人	2,250人
便利でコンパクトなまちづくり	居住者数 (H19)	1,278人	1,360人
持続可能なまちづくり	市民企画のイベント実施数	40回	64回

人 (歩行者通行量(休日)の推移と数値目標) * 毎年調査(調査地点3箇所)



連続立体交差事業を契機に、地元の杉材を活用した市街地整備の徹底と店舗のデザインコードを取り入れた21世紀のまちなみづくりにより、市民全体が誇り・集える中心市街地を創出する。

日向市中心市街地活性化基本計画の事業概要

21世紀のまちづくり

○市街地整備の実施

駅前を中心に積極的に土地区画整理事業を行い、商店街の活性化と良好な居住空間、交流施設を設置し、市民の誇りとなる街づくり

○店舗のデザインコードの設定

区画整理地内の商店街を魅力のある空間とし、地元産材を活用するために、街区ごとに各店舗のデザインを統一化



十街区パティオ



8街区リーフギャラリー



区画整理:17.6ha

日向市駅

中心市街地:50.6ha

商業の活性化

○商業集積事業による商店街の再活性化

土地区画整理事業にあわせて、商店街の集積を行い、回遊性の高いにぎわう商店街を形成
9街区:8店、11街区:12店、12街区:11店、13街区:1店、15街区:2店 (合計:34店)

○商店街が近隣と連携した各種市の開催

黒潮文化と森林文化の接点という市の特性を活かし、朝市、夕市、キテン市(歩行者天国に軽トラックやワゴン車の荷台を店舗とした市)を行い、周辺からの物産を中心市街地で販売



朝市の様子

○日向市駅での観光対策

地元産の杉をふんだんに使った駅そのものを観光の場とし、PRコーナーや地元の物産展示販売所を設置



日向市駅



市民主体の活動による活性化

○交流拠点広場整備

駅前に市民主体の多様なイベントの場として野外ステージを設けた交流拠点広場(3,400㎡)を整備



交流拠点広場



日向市駅周辺整備計画図

まちなか居住の推進

○居住優遇税制

中心市街地で共同住宅や店舗併設住宅を建設・取得した際に固定資産税を50~100%減額

○都心居住共同住宅供給事業

区画整理により集約された区画での民間マンション建設の促進



コルセ・カレ日向

○都市福利施設の設置

子育て支援施設や障がい者総合センターを運営し、住民福利を向上



たんぼぼきっず